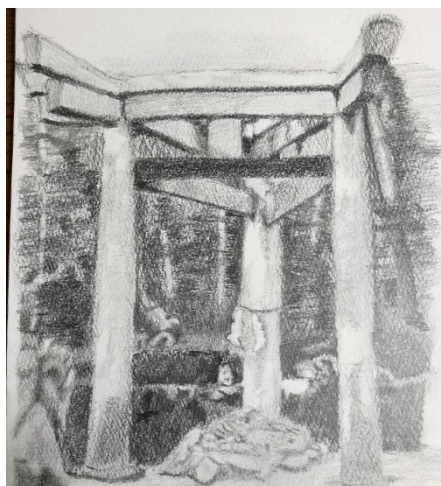


	NPO 法人 京都観光文化を考える会 <b>都草だより</b>	第61号 発行人：小松香織 編集人：西野嘉一 発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 電話：075-451-8146
---	------------------------------------	--

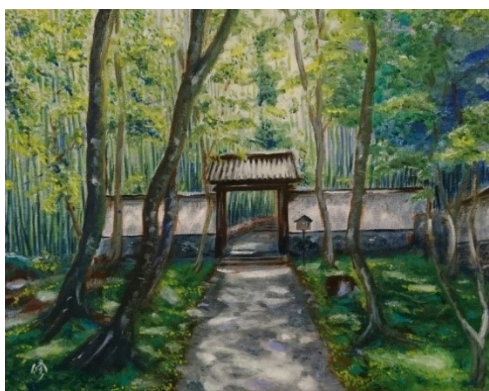
■「都草色とりどり」発刊に関して

前回の座談会でもお話ししましたように、新型コロナウイルス拡散防止のため都草の活動が停止し、集まりもできず、講演も聞けず、閉じこもっているばかりでした。この間、私は溜まっていた仕事は捌りましたが、皆さんもそれなりに何かしておられるだろうか、元気でいらっしゃるだろうか、そんな思いから会員同士の懸け橋になればと、メールマガジンを発案しました。一番の問題はメール会員のみで、郵便会員には届かないということでしたが、やむを得ず、やれることはこれしかないと思い理事会に提案し賛同を得て始めました。最初は手探りで5月31日にプレ発刊し、6月から本格的に毎週火曜日に発刊しています。おかげさまで毎週3～6名の方の投稿をいただき、8月末までに29名、延べ67名の記事を掲載しました。

内容は、紀行文でも作品発表でもつぶやきや写真、趣味など何でもけっこうです。閉じこもっていても”元気にしてますよ”の便りをいただきたく、記名で原稿そのままの掲載を考えていました。題名「都草色とりどり」も私が勝手に決めました。勿論こんなの送信しないで欲しいという方には受信拒否設定もさせていただきます。



NO.648 久宗 圭一会員 鉛筆デッサン画 (蚕の社・三柱鳥居)



NO.654 逸見 修会員 油絵 (竹の寺 地藏院)

初めに芦田さんから淀散策の投稿があり、外出自粛ムードの中、各会員の地元の散歩コースなどの紹介が続き、ちょっと研究発表会並のお話や、みごとな絵画作品の発表もあり、改めて会員の多種多様な一面を見せていただいたと思っております。

今まであまり投稿などされたことがなかった方からも、また行事参加しにくかった京都以外

からもご参加いただきました。さらに記事への感想も頂戴し、投稿した会員の励みにもなっております。

最近ではクイズも出題され、櫻井さんには「落柿舎だより」を連載で送っていただくなど、色々な趣向を試みていただいております。

どうしてもパソコンは苦手という方は手書きの原稿をFAXで送ってくださってもかまいません。こちらで画像に変換するかワードに打ち換えます。

スタッフとして活躍していただいている方も、行事参加のみの方も、北海道から宮崎まで400名近い会員が集まる都草ですから、ネタには困らないと思います。お一人1回は遠慮なさらずお便りいただきたく思います。

なお、新規メール会員でバックナンバーのご希望がありましたら、お送りいたしますので事務所までご連絡ください。

8月現在、新型コロナウイルスの勢いは衰えず、9月からの都草の活動も制限が続いています。この「都草色とりどり」のコーナーも、もう暫く延長し新しい企画も考え、新しい都草の活動の一環として、会員参加型のメールマガジンとして皆様方と共に作り上げていきたいと思っております。

「都草色とりどり」編集責任者 熊谷 喜輝

## ■ with コロナの中で美化活動再開！

京都をきれいにしたいという思いから始まった美化活動が、思いもよらぬ新型コロナウイルスの流行により 200 回を目前に自粛を余儀なくされていましたが、緊急事態宣言の解除を受け、with コロナを念頭において活動を再開することにしました。

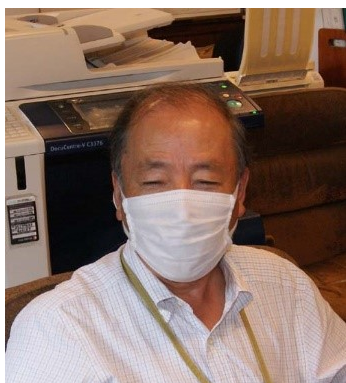
再開後の最初の美化活動は、7月恒例となっている引接寺(千本ゑんま堂)で行いました。感染防止の観点から、遵守する最低条件として①石鹸での手洗い②検温③マスクの着用④軍手の使用⑤距離の確保を原則としました。ただ、この日は30℃を超える暑い日となったことから、感染防止に加



えて熱中症予防も重視し、「休憩の確保」、「水分補給」をお願いしました。またマスクを外す条件として、「十分な距離の確保」と「私語の禁止」もお願いしました。終了後の法話やお焼香は本堂ではなく屋外で行い、加えて、参加者全員の水塔婆を流して先祖供養をしていただきました。

9月からは、大きな状況の変化がない限り、感染防止対策をしっかりと講じながら本格的に with コロナを意識した活動を行なってまいりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。(美化活動部 部長 岡本 正二)

## ■ 初めの一步を〱～新入会員オリエンテーションに参加して～



コロナ禍で不要不急の外出自粛が要請された緊急事態宣言発令。都草に入会した途端にこの状況。なんてこった。ああー、ついてないな……。 「あれも、これもいいな。参加してみたい。」と考えていたのが “露と落ち露と消えにし我が想い、京洛のことも夢のまた夢 “の中へ。

そんな折、HP で新入会員オリエンテーション開催との記事が目にとまる。宣言も撤回されたし、感染も落ち着いてきたし？会員としてのデビューを決心。何しろ他の活動と違って誰でも1度しか経験できないことだから。

当日は三重県津市より早朝から京都府庁旧本館を目指して GO。熊谷副理事長、須田副理事長、伊藤理事がにこやかに迎えてくださって会が始まる。私を含め4名の新人は緊張気味。しかし、3名の方の飾らない気さくなお人柄や丁々発止の掛け合いがアットホームな雰囲気醸し出し、心が和む。多くの資料が配布され目を通すだけで精一杯の私。でも、懇切丁寧な説明や流暢な語り口のおかげで活動内容や組織体制、歩みなどについて少しは理解。まずは、体力さえあればできる美化活動から入るのがお薦めとのこと。初めの一步を踏み出すことが大事。自己紹介、少し懇談。その後、旧知事室や中庭などについて熊谷氏から活動に裏打ちされた興味深い案内あり。

ぼんやりとした都草の存在がより自分に近いクリアな存在として浮かび上がってきた2時間。知見や経験を自己満足にとどめておくだけでなく、活動に参加することにより他のだれかに、もっと言えば社会に役に立てるよう、井上満郎先生の言葉にもある「社会化」を目指せばいいなと思う。(会員 中川 三朗)

\*\*\*\*\*  
 \* メール会員移行のお願い  
 \* コロナ過で活動が制限されている中、都草では新しい試みとしてメールマガジン「都草色とりどり」の発行や、研究発表会などの YouTube 配信を始めています。これらの試みは全てメールを利用しているため、メール会員の方が対象となり、郵送会員の皆様にはご案内しておりません。より多くの会員の皆様にご参加いただくために、郵送会員の方でパソコンとメールアドレスをお持ちの方は、ぜひメール会員に移行していただきますよう、よろしくお願いたします。  
 \* \*\*\*\*\*